

全断面掘削

兼見トンネル

兼見トンネルの1号区間(延長3,117m)は、10ブームのドリル・ジャンボによる全断面掘削工法が採用されている。地質が古生層の硬岩であるからこの工法が適当しているのであるが、これが終点付近の4号区間になると砂礫層で湧水も多く、原始的な手掘り掘削されている。だから始点から終点にくると、私たちはジェット機から昔のカゴに乗り換えたような気がする。以下は全断面掘削という最新のトンネル工法の御紹介。

写真説明

- ① ジャンボにレッグ・ドリル10台を据付ける
- ② 据付けをおわるとロッカー・ショベルがこれを切羽まで押してゆく
- ③ ジャンボが活動
- ④ ドリルをにぎる坑夫、百雷が落ちたかと思われるほどの轟音とガス。胆玉の小さい人はおそろしくて逃げ出してしまう。(このあとハッパ)
- ⑤ 爆破されたズリをロッカー・ショベルがすくって後のトロに積み込む
- ⑥ ロッカー・ショベルに押されてゆくトロ
- ⑦ ズリを満載したトロは5・6台連結され機関車がけん引して坑外へ……

